

招 集 期 日	平成 2 9 年 1 月 1 9 日 (木)		会議の場所	教育委員室
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 1 時 3 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午前 3 時 2 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	柿 沼 拓 弥 委 員	出 席	
古市明教育長職務代理者	出 席	高 瀬 賢 一 委 員	出 席	
春 山 教 子 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	橋本教育総務課長	栗原学校教育課長
	小島学校給食センター所長	池澤生涯学習課長	山木スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会	教育長	1 月定例教育委員会を開会		
日程第1 前回会議録の承認	教育長	教育委員会の会議は原則公開であるが、人事に関する事件その他の事件について出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは公開しないことができる。本日の日程で非公開とすべき案件はないため、全て公開としてよろしいか。		
		異議なしの声あり		
	教育長	12 月定例教育委員会の会議録の承認について諮った。		
		異議なしの声あり		
	教育長	前回会議録は、承認された旨宣した。		
	教育長	報告事項 1 について、学校教育部長及び生涯学習部長から説明を求めた。		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 平成28年12月定例市議会提出（教育委員会関係）議案等について</p>	生涯学習部長	<p>島村勉議員から「羽生市産業文化ホールの指定管理者の指定について」の議案質疑があった。1点目の「指定管理者になってからの稼働率、入場者数、興業等の実績の変化について」は、市直営時の平成24年度と比較すると、稼働率は大ホールで約15%プラス、入場者数は約1割以上増加している。興業等の実績については、平成26年度は5本、平成27年度は8本、平成28年度は9本の事業を実施し、市直営時が年間2本から4本であったのに比べ、事業数は年々増加している。なお、市民文化の向上を図るための新たな取組として、大ホールを独り占めできる「大ホール開放事業」や市内3中学校の吹奏楽部の生徒にプロの演奏家が楽器ごとに直接指導する「マスタークリニック」も実施していることを説明した。2点目の「指定管理者の継続による今後の文化活動拠点としての考え方について」は、郷土芸能や文化を通して、様々な世代が交流を深められるよう、指定管理者の全国での文化施設運営のノウハウを活かして、子どもから高齢者までが楽しめる多彩で魅力ある事業を展開し、市民に親しまれる管理運営に努めていく旨を答弁した。</p>
	学校教育部長	<p>野中一城議員から「羽生北小学校プール槽改修工事請負費について」の議案質疑があった。工事内容と補正予算を要求する理由として、プール活動中に、プール槽の底面が広範囲に渡り剥離したために改修する工事であること、工事期間が2ヶ月程度と見込まれるため、当初予算として新年度になってから入札を執行し施工した場合、プール開きまでに工事を完了させることが困難であることから、今年度中に工事を実施するため補正予算として計上したことを説明した。</p> <p>斉藤隆議員から「発達障がい者への支援の取組について」の一般質問があった。1点目の「『他の児童とともに教育を受けられるよう配慮しつつ教育支援を行うこと』について、どのように教育の現場で具現化していくのか」に対し、通級指導教室が大きな役割を果たしていること、積極的に交流授業や支援籍学習を行っていること、「羽生市発達障がい等早期支援対策事業」等の専門的支援を行っていること、児童生徒介助員を積極的に配置していることを説明した。2点目の「発達障がい児に対する個別の教育支援計画及び個別の指導に関する計画の作成」「い</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>じめ防止等のための対策の推進」「その他支援体制の整備及びその他必要な措置を講じるなどの個々の取組」についての質問に対し、教育支援プラン A を作成して個別支援の大きな道筋を示し、教育支援プラン B を作成して本人の具体的状況と具体的指導内容を記載し、学校全体と教育委員会で情報共有をして、指導に生かしていること、市内小中学校では、「いじめ防止等のための基本的な方針」を策定して、いじめのない学校づくりを進めており、市でも「羽生市いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき様々な策を講じていること、臨床心理士等の巡回相談の充実、児童生徒介助員の充実、特別支援教育コーディネーター、スクールソーシャルワーカーによる支援体制を今後も確保し、保幼小における連携、就学支援委員会の充実、医療機関や行政との協力体制を一層進めていくと答弁した。</p> <p>中島直樹議員から「防犯情報の提供方法について」の一般質問があった。1 点目の「小中学校の防犯メール配信の基準について」は、警察から提供を受けた防犯情報については、教育委員会から小中学校に F A X 及び電話、勤務時間外にはメールにより情報提供し、学校には必ず保護者にメール配信をするよう指示していること、各学校から寄せられる不審者等の防犯情報については、不審者と判断できる内容を少しでも含んでいる場合、全ての小中学校が保護者にメール配信するよう指示していることを説明した。2 点目の「防犯に関する確認メールが市内小中学校に一斉に配信されていないという状況に対する羽生市教育委員会の見解」については、学校からの配信漏れがないように教育委員会として各学校の配信状況の確認ができる仕組みを整えていくこと、校長研究協議会において、改めて防犯情報の保護者へのメール配信について確実に配信するよう徹底したこと、さらに、市内の全ての保護者に羽生市メール配信サービスに登録を呼びかけるチラシを配布したことを説明した。</p> <p>丑久保恒行議員から「市内小中学校の学力向上について」の一般質問があり、まず、教育長が答弁した。「学力の向上は、短いスパンではなかなか評価が出るとは考えられない。根雪のように積み重ねが必要であると考えるが、いかがか。」という質問については、羽生市の学力は低迷しており、現状を打破し、子ども達の学力を向上させることは、教育長としての大きな使命の一つで</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>あること、長期的視野に立ち、学力の伸びを保証するために、一人一人にやる気と自信を持たせ、自ら学ぶ意欲を高めることで、学力向上につながる好循環のサイクルをつくりたいと考えていると説明した。「即効性のある手法を次々と導入することも、評価を高める効果につながると考えるが、いかがか。」という質問については、まず、学力の向上に向けた教育環境の整備を行うことが学力向上の基盤となると考えていること、最大かつ重要な教育環境こそが、「教師」であり、学力の向上には、「教師力の向上」が不可欠であり、教師自らが本気になって、「授業力の向上」を目指すことが教師の使命であると考えていること、具体的には、アクティブ・ラーニングを推進し、今求められる思考力、判断力、表現力を伸ばすために有効とされている授業、能動的な学習を取り入れた授業のできる教師を育てていきたいと考えていると説明した。「教育長として、羽生の子ども達、世界の宝である子ども達を、どのように育て上げていく考えであるか。」という質問については、子ども達の「知・徳・体・コミュニケーション能力」をバランスよく育て上げていくことが、肝要であると考えていること、「夢と希望」を持ち、何事にも一生懸命に頑張る子ども達を育てるために、夢と希望を語る教師、子ども達の心に火をつけられる教師、優れた指導力と使命感を兼ね備えた熱意と専門性の高い教師を育成していくことが、重要であると強く認識しており、校長研究協議会において意図的に学力向上が学校経営の核となるよう、お願いや情報提供を行い、各学校、きめ細やかな指導や個別指導などを行っている」と説明した。子ども達は「日本の宝」「世界の宝」であり、「羽生市の未来の創り手」である。最後に、繰り返しとなるが、教育長として、羽生の子ども達の「知・徳・体・コミュニケーション能力」をバランスよく育て上げていきたいと強い決意を述べた。</p> <p>続いて私が答弁した。「学力向上に向けて、どのように対処したのか」については、学校ごとの学力調査の分析結果を基にした重点取組の作成、教育委員会からの指導及び「検証テスト」の実施により、今年度の県学力・学習状況調査の小学校5年生から中学校1年生の算数・数学において、県の平均正答率に近づくことができたことを踏まえ、今年度は、昨年度より早く重点取組がスタートできるようにし、「羽生市教育委員会学力向上訪問」を行</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>い、各校の実態に応じて具体的に指導・助言を行っていること、「検証テスト」も昨年度よりも早く1月に実施し、残りの2ヶ月を指導法の改善や重点取組の成果の検証に活かせるようにすること、新たに始まった「市町村教育委員会学力向上支援プロジェクト」を積極的に活用し、校長研究協議会で県の市町村支援部長、教頭研究協議会で義務教育指導課指導主事による講義を行ったこと、義務教育指導課の指導主事による研究授業への指導、校内研修会での講義、模擬授業、学校ごとの学力・学習状況調査分析指導などを行っていること、「学力アップ羽生塾」で確かな手応えを感じており、来年度は対象学年を広げ、小学校中学年からの学力向上に取り組みたいと説明した。「羽生市の学力の結果、実態はどのようなであったか」については、羽生市はここ数年、低迷している状況であったが、県学力・学習状況調査において中学校2年生の国語以外の全学年・全教科において、わずかながら学力の伸びが見られること、先生方や子ども達が続けてきた努力が、成果として表れつつあり、努力が報われる喜びや、できるようになるという喜びが、学習意欲や学力の向上につながると考えていると答弁した。</p> <p>奥沢和明議員から「ムジナモ自生地の保存対策事業活用と堀上田について」の一般質問があった。1点目の「国指定50周年記念展の効果」については、10月29日から11月27日までの期間中に1,221名が来場したこと、今回の展示のコンセプトとして、危機的な状況が続き国指定が解除される恐れがでてきた中、平成25年度までの5年間実施した緊急調査の成果を中心に公開し、ムジナモ自生地が指定後、地元住民やムジナモ保存会とともに指定解除の危機を乗り越えてきた歴史と自生地内が貴重な動植物の宝庫であり、「多様な生物がバランスよく生育できる環境」を作っていくことの大切さを多くの来場者に伝えることができたと考えていると説明した。2点目の「保存対策事業・学習施設等の設置事業の活用」については、国の補助事業を活用するためには、整備基本計画を策定する必要があるとあり、長期にわたる事業となるため、調査・研究していく必要があること、ムジナモ自生地を学習活動の場として活用を図るため、県と意見交換を重ね、自生地の北側と南側に遊歩道を設けたり、高い場所から見学するための観察用デ</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 平成28年羽生市教育委員会後援名義の承認等の状況について (7月～12月分)</p> <p>報告事項3 小・中学校における2学期の表彰の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>教育総務課長</p> <p>教育長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>ツキヤ、自生地に関する説明板を設置することについて、羽生水郷公園の整備に合わせて要望している。3点目の「掘上田の復活に対する考え方」については、本事業の指導・助言をいただいている埼玉大学の金子教授からは、現在の自生地の状況を維持していくことがとても重要であること、緊急調査で水生昆虫を担当された元埼玉大学の林教授からも、植物の一般論として、数が増えて飽和状態に近くなった時、一気に数を減らす現象が見受けられるため、何か対策をとる必要があると指導いただいている。自生地のムジナモが、いつ何どき、消滅する状況が起きるか想定できないため、自生地内でのムジナモの生育に全力を傾けるとともに、掘上げ田の復活に向けて国や県の指導を受け研究していきたい。そして、埼玉県レッドデータブックの野生絶滅からの脱却を目指し、地元をはじめムジナモ保存会とともに国指定100周年を迎えられるよう、宝蔵寺沼ムジナモ自生地を守り続けたい旨を答弁した。</p> <p>報告事項2について、教育総務課長から説明を求めた。</p> <p>後援名義の使用は、教育総務課、学校教育課、生涯学習課、スポーツ振興課に計15件申請出され、承認件数は14件であった。共催名義、協賛名義、推薦名義の使用についての申請は無かった。教育長賞の交付は、教育総務課と生涯学習課に計3件申請があり、いずれも承認された。</p> <p>報告事項3から7について、学校教育課長から説明を求めた。</p> <p>2学期は、小中学校通じて絵画関係、中学校の新人体育大会の表彰が多かった。特に上位の表彰を挙げると、羽生北小学校では、埼玉県芸術文化祭「ふれあい短歌賞」で1年生の児童が大賞、4年生の児童が準賞、JA共済小・中学校書道コンクールで5年生の児童がFM NACK5賞を受賞した。新郷第一小学校では、</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項4 平成28年度羽生市教育研究大会の開催について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>薬物乱用防止啓発ポスターコンクールで5年生の児童が埼玉県薬剤師会長賞に選ばれた。新郷第二小学校では、「郷土を描く児童生徒美術展」で3年生の児童が県知事賞、児童絵画作品コンクールで3年生の児童が県知事賞、彩の国みどりの絵画コンクールで3年生の児童が県教育委員会教育長賞、道路愛護ポスターコンクールで1年生の児童が県知事賞を受賞した。須影小学校では、身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会で3年生の児童が産経新聞社埼玉県総局長賞、5年生の児童が埼玉県美術教育連盟長賞、県民の日児童生徒絵画コンクールで4年生の児童が県知事賞を受賞した。井泉小学校では、県民の日児童生徒絵画コンクールで2年生の児童が県知事賞に選ばれた。手子林小学校では、埼玉県児童・生徒発明創意くふう展で5年生の児童が埼玉県産業労働部長賞を受賞した。村君小学校では、彩の国みどりの作文コンクールで4年生の児童が埼玉県議会議長賞を受賞した。羽生南小学校では、児童絵画作品コンクールで3年生の児童が関東運輸局埼玉運輸支局長賞、身体障害者福祉のための児童生徒美術展で2年生の児童が県議会議長賞を受賞した。西中学校では、埼玉県の新人体育大会の女子走高跳で2年生の生徒が3位、男子棒高跳で2年生の生徒が5位、埼玉県中学校バレーボール大会で3年生の生徒が優秀選手賞となり、中体連野球専門部強化指定選手に2年生の生徒が選ばれた他、埼玉県科学教育振興展覧会・中央展で科学部が知事賞、県民の日児童生徒絵画コンクールで1年生の生徒が知事賞を受賞した。南中学校では、新人体育大会の水泳男子50m平泳ぎで2年生の生徒が4位となり、身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会で3年生の生徒が県議会議長賞を受賞した。東中学校では、新人体育大会で野球部が優勝、女子卓球のダブルスで2年生のペアが3位となった他、中体連野球強化指定選手に2年生の生徒が選ばれた。</p> <p>2月16日に産業文化ホールにて開催する。冒頭に羽生市プレゼンテーションコンクール最優秀校である、三田ヶ谷小学校と西中学校の発表がある。川俣小学校のコミュニティスクールについての研究発表の他、文部科学省初等中等教育局の参事官付専門職である相田康弘氏の講演を予定している。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項5 平成28年度児童生徒「新体力テスト」平均値について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>50m走、反復横とび、小学校の20mシャトルランは、男女共に多くの学年で県の平均値を超えている。反対に握力、立ち幅とびは全体的に県平均より低い傾向である。埼玉県全体としてボール投げが低いことが課題であり、羽生市もそうであったが、今回は県平均を上回っている学年が増えており、努力してきた成果が表れたと分析している。</p>
<p>報告事項6 平成28年度羽生市小林秀三教育賞受賞者について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>受賞者となった手子林小学校の教諭は、教務主任を務め、社会科の授業の専門性が高く、若手教員のリーダーとして活躍している。西中学校の教諭は、学年主任であり、教科の力も素晴らしく、また生徒指導のスペシャリストでもある。部活動の指導でもサッカー部を県大会出場に導いている。東中学校の教諭は、数学の教科指導に力を発揮している他、進路指導主事としても活躍し、さらに部活動の指導でも卓球部を県大会出場の常連に育て上げている。川俣小学校の養護教諭は新任5年目であるが、健康教育に意欲的に取り組み、今年の歯科コンクール最優秀賞の立役者となった。数年前はベテランの先生の応募が多かったが、中堅・若手の教員が受賞するようになり、大変喜ばしい。</p>
<p>報告事項7 平成28年度羽生市小・中学校プレゼンテーションコンクールの結果について</p>	<p>学校教育課長</p>	<p>プレゼンテーションを行うことを通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることを目的としている。今年はテーマを「絆」として各校が発表を行ったが、昨年度と比較して全体的に大きく向上している感想を持った。最優秀校は、小学校の部では三田ヶ谷小学校であり、地域の人を巻き込んでビデオ等を作り、プレゼンを行った。中学校の部では昨年に続き西中学校であり、冒頭でかなり長い時間の英語による掛け合いがあり、英語の発音も非常に良かった。「絆」というテーマの中で他の学校は、学校と地域という内容が多い中、西中学校は姉妹都市であるフィリピンのバギオ市を題材にした。バギオで活躍した羽生市の人物から始まり、今の羽生市とバギオの関係が築かれ、現在の中学生派遣がある。この繋がりをこれからも大切にしていきたいという素晴らしい発表であった。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項8 平成28年度羽生市学校給食センター給食試食会の結果について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項8について、学校教育課参事兼学校給食センター所長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項9 平成28年度（第6期）子ども大学はにゅうの結果について</p>	<p>給食センター所長</p>	<p>5月26日から12月15日までの期間で、計7回実施した。参加者数は106名であった。最近では、市内小学校において保護者対象の試食会等が計画されており、給食センターでの試食会の参加者は、一般の市民、栄養士との情報交換を希望する保護者といった傾向である。アンケートでは、84%の方が美味しいと回答しており、たくさんの意見を伺うことができた。今後も給食の安全性を広く周知し、保護者と自治体そして生産者の3者が互いに協力し、給食の未来を作っていきたい。</p>
<p>報告事項10 「羽生学講座Ⅵ」の結果について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項9から15について、生涯学習課長から説明を求めた。</p>
	<p>生涯学習課長</p>	<p>9月10日から12月10日までの期間で、計4回の日程で実施し、小学校4年生から6年生までの児童28名の参加があった。1日目の「宇宙から眺める地球はどんなだろう」は、これまで理系の授業が少なかった中、羽生第一高校の先生の協力を得て実施することができた。3日目の「はにゅうの産業と歴史を知ろう」では、株式会社東亜酒造の工場見学をさせていただいた。異学年交流モデル事業として子ども大学を卒業した中学生7名がサポーターとして参加したことにより今まで以上に活発な講義となった。</p>
	<p>生涯学習課長</p>	<p>9月17日から11月26日までの期間で、計5回の日程で開催し、受講人数は22名であった。講義は出土された遺物の時期、埼玉古墳との関連性を中心とした内容であった。前方後円墳には、力のある方が葬られていると考えられており、埼玉古墳群や太田にある国指定の前方後円墳に関係し、重要な位置にいた人物が永明寺古墳に葬られていたのではないかという話があった。永明寺古墳を活用していく上で、未だ解明されていない謎に迫りながら、ストーリーを構築できるように調査を進めていく必要がある。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項11 天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」国指定50周年記念展の結果について	生涯学習課長	10月29日から11月27日までの期間で、図書館・郷土資料館展示室にて開催した。昭和8年製の自生地周辺絵図や国指定の通知書、自生地内で使用された農具等を展示した。11月5日には元文化庁主任文化財調査官の本間暁氏に記念講演をしていただいた。入館者数は、延べ1,221人であった。
報告事項12 平成29年羽生市成人式の結果について	生涯学習課長	1月8日に産業文化ホールにて開催した。該当者619名の内458名が参加した。参加率は73.99%であり、前年比約1.3ポイントの増加となった。昨年までは出身中学校ごとであったが、今回は中学校卒業時の在住地区を元に3つのグループに分けて受付し、記念撮影をした。記念行事の賞品は、実行委員が自ら市内業者等を訪問して用意した。記念写真については、パソコン等で成人者がパスワードを入力するとダウンロードすることができる。
報告事項13 第33回「彩の国21世紀郷土かるた」羽生市大会の結果について	生涯学習課長	12月3日に市民プラザにて開催した。参加者数は団体の部20チーム69人、個人の部20人、合計89人であった。団体の部では須影Aが優勝、個人の部では、新郷第二Dの児童が優勝した。団体、個人共、優勝から3位までは2月18日の北埼玉支部大会、さらに3月12日県大会に出場する。
報告事項14 家庭教育支援事業「パープル羽生DEひなまつり」の開催について	生涯学習課長	2月5日にパープル羽生にて開催する。今回は共催として埼玉県ウーマノミクス課の協力をいただく予定である。テーマは「仕事と家庭どっちも楽しむ 新しいパパママのあり方」、講師は山口理栄氏である。参加者にはランチとして「お楽しみひなまつりメニュー」を用意する。
報告事項15 第9回羽生市郷土芸能発表会の開催について	生涯学習課長	2月12日に産業文化ホール小ホールにて開催する。下岩瀬白山太鼓保存会、桑崎獅子舞保存会等、計8団体が出演する予定である。チラシを各小学校、中学校に配布し、その他広報、報道機関への情報提供等で周知する。司会は羽生第一高校の放送部に依頼している。

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項16 第32回羽生市綱引選手権大会の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>スポーツ振興課長</p>	<p>報告事項16、17について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p> <p>12月11日に羽生市体育館にて開催した。参加者は一般男子の部13チーム、一般女子の部11チーム、小学生の部19チームで、計43チーム470名であった。スポーツ推進委員を中心に大会を運営し、午前中に予選リーグ、午後に決勝トーナメントを行った。ユニークなコスチュームに身を包んだチームや、海外からの参加チームもあり、過去優勝経験を持つチーム同士の戦いも白熱し、会場が大変盛り上がった。</p>
<p>報告事項17 平成28年度トップアスリート育成事業羽生市バスケットボール教室の結果について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>9月3日にBリーグ埼玉ブロンコス選手6名とヘッドコーチ、12月17日に明治大学バスケットボール部の選手等24名を招き、羽生市体育館にて開催した。参加対象は市内の小学生、中学生、指導者、保護者であり、参加人数は1日目が313名、2日目が311名の合計624名であった。参加者はプロや大学生の指導を受け、トップレベルのバスケットボールを肌で感じる事ができた。スポーツ少年団ミニバス部会の協力により多数の参加を得ることができ、スムーズに運営することができた。</p>
<p>報告事項18 開館30周年記念パネル展示「郷土資料館30年を振り返る」の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p>	<p>報告事項18について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p> <p>9月17日から10月2日、12月5日から12月26日の2回に分け計32日間開催し、入館者数は1,000人であり、親子での来館が目立った。郷土資料館で行ってきた展示会のポスター、リーフレット、展示風景の写真パネル等を掲示し、その他広報に掲載した記事や市民学芸員の活動風景等を展示した。入館者には、昭和61年8月の開館以来、郷土資料館が羽生市民と共に歩んできた記録を通して、郷土資料館に対しての理解を深めてもらうことができたと思う。今後も郷土資料館を身近に感じてもらえるような展示をしていきたい。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項19 その他	教育長	その他の報告を求めた。
	生涯学習課長	12月定例教育委員会で報告した羽生市PTA連合会、家庭教育研修会について、開催日が1月21日に変更になったことを報告する。
	教育長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	春山委員	定例市議会での一般質問に対する教育長、学校教育部長の答弁では、学力向上について詳しく説明されており、大変参考になった。本年度は「学力向上推進元年」と位置づけられ進んできたが、来年度においても、各学校と教育委員会が連携を図り一丸となり取り組めるような方針を、年度のスタートに合わせてきちんと策定できると良いと思う。
	学校教育部長	まったくその通りであり、各学校と教育委員会とが協力し、また家庭や地域とも手を組んで今後一年間の学力向上の取り組みを進めていくためのグランドデザインを只今作成中であり、もうすぐ完成する段階である。
古市委員	先日の教育委員視察において小中一貫教育の実施が学力向上に寄与するという説明を聞いた。主要科目の学力向上に注目されがちだが、主要科目以外の分野での小中一貫教育ということに目を向けてみるのはどうか。例えば羽生市では、歯科保健に関して小中一貫という意識をしていないかもしれないが、実際は養護教諭の小中学校間の交流が盛んである等、小学校、中学校に縦の線ができています。「小中一貫」は学力以外でも学校現場で頻繁に使う言葉になって欲しいと思う。主要科目以外では美術、音楽、書道、食育等、小中一貫の取組に横の連携が加われば色々な成果に繋がることになると思う。	

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>確かに主要教科に目が行ってしまうが、特に中学校においては主要教科以外の教科の先生が多い。羽生市では中学校区毎のブロックで小中一貫教育に関する連絡協議会を行っている。そこでは教科部会に分かれての話し合いも行われるが、研究授業がある時は教科に関わらず呼びかけ、小学校、中学校お互いの授業を見に行ったりする。授業の指導案について小中学校間での相談が行われるなど、それぞれの立場で責任を持って取り組んでいる。</p>
	教育長	<p>健康教育については、小学校の保健委員会に中学校の養護教諭が参加したり、その逆もある。学習面では、小学校のサマースクールに中学生が来て教えてくれたり、小中連携した良いコミュニケーションがとれているところもある。</p>
	高瀬委員	<p>体力テストの結果について、男女とも握力や立ち幅とびの平均値が低いとのことであったが、これを向上させるため、学校や市で何か取組を行っているか。</p>
	学校教育課長	<p>これほど如実に県平均より低い学年が多かったのは、今回初めてであり、先日の校長研究協議会と教頭研究協議会でもこのことを伝えたところである。段階的でなく急に落ちたという感じであり、教育委員会事務局でもどのような対策を講じるか検討中である。</p>
	高瀬委員	<p>50m走、立ち幅とび共に瞬発力を要する種目である。50m走の平均は県より高いため、立ち幅とびもそれほど悪くならないのではないかと思う。立ち幅とびのやり方に問題があるかどうかは分からないが、結果を見て不思議に思った。</p>
	学校教育課長	<p>恐らくではあるが、子ども達に立ち幅とびの機会そのものがほとんどないこと、指導者が的を射た指導をできていないことが考えられるところであり、改善していきたい。</p>
	古市委員	<p>学力向上について、授業時間をもっと有効に活用できればと思う。クラスの中で学力に差があり、子ども達から見た授業の難易度にも差がある状態なのではないか。児童生徒からみた授業をど</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>のように活性化するか、そのような観点で考えなおすことが必要なのではないかと思う。研究授業でも40分、50分間で、一つのことに手間をかけて学習している。場合によるとできる子は2、3分で理解できてしまうかもしれない。特に小学校はスピードを上げる必要があると思う。学習塾では、子どもの学力のレベルに合わせたプリントで問題を解かせ、適度な負荷をかけて能率を上げている。学校の授業でもクラス全員でたった一つのことだけ学習しているのは勿体無い気がするので、良いアイデアがないかと思う。</p> <p>学校教育課長 学力が中の下くらいの子を基準にして授業が進んでいるという反省をよく耳にする。委員ご指摘の点を学校でも気付いてきており、チャレンジコースと基礎基本コースなど多くの学校が学力やスピードに合った形の少人数指導を推進しているところである。また、同じ授業の中でも、問題を早く解ける子は飽きてしまうため、そういう子ども達のために、チャレンジ問題を出題する等工夫する授業が増えてきた。さらに研究を進めて、それぞれの学力に見合った、さらに向上させるような授業を構築できたら良いと考えている。</p> <p>学校教育部長 県の義務教育指導課の指導主事に羽生市の学校の授業を見ていただく機会があった。子ども達があれだけ熱心に授業を受けているのであれば、羽生市の成績はもっと良くていいはずなのという話題の中で、授業にテンポ感がないからではないかという指摘があった。このことについて羽生市教育委員会学力向上訪問で各学校の管理職、教務主任等に話をしているところである。</p> <p>古市委員 テンポが良くないことは以前から感じていた。集中して何かを行えるのは15分から20分くらいであり、45分の授業であれば2つか3つに区切って学習する等の工夫も必要なのではないかという気がした。</p> <p>柿沼委員 小林秀三賞について、以前受賞したある先生は朝早く学校に来て窓を開けて空気を入れ替えをしたり、自主的にごみ拾いをする姿を見て、子ども達が真似をしてやるようになったという話が有</p>

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>った。そういうことが学力向上についてもプラスに作用すると思う。若い先生方にこれからの羽生市を引っ張っていただきたい。</p> <p>初任者から見て、自分に近い年代の職員が受賞することは、目標として目指し易くなる。良い傾向であると思う。</p>
	春山委員	<p>学力の向上、教師力の向上は大切であるが、最近よく話題になっている教師の過重労働は心配である。週の勤務時間が60時間を超えることもあると聞く。教師の仕事の量を減らすことは、難しくくて大きな課題であると思うが、来年度に向けて何か方策を立てられれば良いと思う。</p>
	学校教育課長	<p>校務負担の軽減を図るため、新しい施策を作ると同時に、これまでやってきたものを、必要性を検討の上、廃止又は統合し、来年度の予算要求を行っている。まずは教育委員会としてその姿勢を見せ、学校でもそのような視点を持つことを依頼した。</p>
	学校教育部長	<p>一番に挙げられるのが中学校における部活動の問題かと思う。今回報告した表彰の実績のとおり、先生方は熱心に、意欲的に、喜びをもって部活動を指導している状況であり、心理的な過重負担は無いのかもしれない。しかし、身体的な負担や家族サービスができない事等の負担はあると思う。先日文部科学省から部活動の活動時間は1日あたり2時間以内、週1日は休みを設けることを基準とする旨の通知があった。これを受け、各学校にはこの基準を遵守するよう指導する。また、長期休業中に学校を閉庁にすることができないか、先進の自治体を参考に研究中である。一気に進めることは難しいが、少しずつでも負担を軽減していきたい。</p>
	古市委員	<p>今まで続けてきたものをやめることは難しいし、勇気が要ることであり、心配である。発想を変えて発展的に移行していく方法もあるかもしれない。</p>
	学校教育課長	<p>昨年度は似たような事業であるスクールボランティアと地域人材活用事業を統合し、柔軟に運用できるようにした。今後もそのような視点で進めていきたい。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>やらなければいけない時は徹底的にやるが、休む時は休む。他市の先進事例も取り入れながら上手くできないか模索し、メリハリをつけることが大切である。</p>
	春山委員	<p>学力の向上に向けて教育委員会、学校、家庭・地域との連携とあったが、とても重要なことであると思う。しかしコミュニティスクールを進める上でも、それが学校に過度の負担とならないよう注意が必要である。もっと地域の人材を活用するとか、家庭への働きかけを地域の人にも協力してもらおう等の方法も考えられると思う。それは教育委員会だけでできることではないため、子育て支援課や社会福祉課をはじめ色々な部所と連携を図り、進めていただきたい。</p>
	学校教育課長	<p>家庭との連携というところでは、今年度はPTA連合会とSNSに関する事など生徒指導上の課題も一緒に取り組んでおり、良好に進んでいる。コミュニティスクールについては、来年度は小学校の半数程度に拡大し、その次は羽生市版コミュニティスクールを学校運営協議会に発展させることを目指している。これが負担にならないよう、既存の学校関係者評価委員を統合していくことを考えている。</p>
	古市委員	<p>成人式について、実行委員の人達の働きが素晴らしかった。ひとつの事業をやり遂げ、それで終わりではなく、その年代の核となり何十年も横の繋がりが続き、やがて地域の核となれるよう育って欲しい。若い人が地域で活動していく一つの入り口となっている。</p>
	生涯学習課長	<p>少し前までは新成人だけで実行委員会を組織していたが、現在は次の年に成人となる世代の準備委員も参加している。式の途中で登場する着ぐるみのキャラクターには、一昨年までは青少年相談員や市職員が入っていたが、昨年より準備委員が友人・知人等協力者を集めてくれている。式が終わると実行委員同士の連帯感が生まれており、次のステップに繋がれば有難い。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	子ども大学はにゅうについても、今年は中学生がボランティアで関わってくれている。事業に参加し、手伝ってくれた子ども達に、この先は青少年相談委員等に参加してもらえるよう進めているという報告を受けている。そのような意味では羽生市独自のシステムを構築しつつあると思っている。
	生涯学習課長	サポーターを募集したところ7人も応募があり、中学生も受講生である小学生も非常に楽しかったとの感想であった。将来に繋げていく視点を常に持ち、事業を継続したい。
	教育長	2学期の表彰の中で、新郷第二小学校において絵画で3年生の児童が3人も県知事賞、県教育長賞を受賞している。担任の先生は図工の指導力が非常に高いと感心した。このような先生が一人でも増えることを心から期待している。
	教育長	報告事項については、よろしいか。 異議なしの声あり
	教育長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	2月定例教育委員会は2月16日 午前10時より教育委員室にて開催する。また、第1回臨時教育委員会を2月28日 午後1時30分より教育委員室にて開催する。
	教育長	閉会を宣した。

会議事件名	て ん 末	
		<p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>